

野ねずみの春駆除について

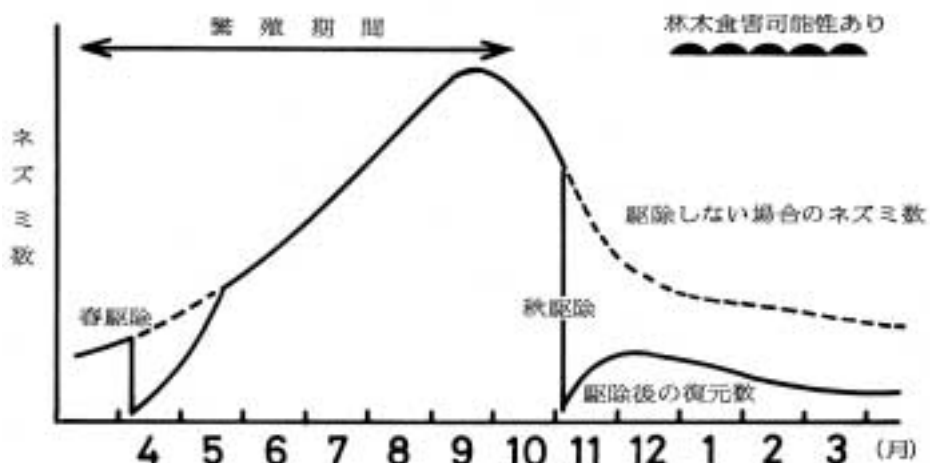
問 造林地の野鼠を駆除するために、春と秋に殺そ剤を散布してきました。経費の都合上、春の駆除をとりやめたいと思いますが、どうでしょうか。 (札幌市, H生)

答 春駆除は効果がほとんどないと考えられますので、とりやめてよいでしょう。

すでに御存知のように、春駆除は春にネズミを駆除してふえる元をなくし、秋のネズミ数を少なくしようとするものです。昭和 30 年代前半には研究者の側からも春駆除を勧めました。しかし、試験研究を積みかさねるなかで、その効果のないことがわかってきました。

なぜかといいますと、駆除をしてネズミ数が少なくなった造林地にはまわりからネズミが侵入するという事です。とくに繁殖期には若くて繁殖能力の高い個体を造林地に侵入させ、短期間にネズミ数は元にもどるほか、かえってそれ以上にふえかねません。最近の造林地は小面積ですから、周囲からの侵入はとくに著しいと思われます。それならば、春駆除はまわりから侵入のない造林地では効果があることとなります。しかし、これも殺そ剤による取り残しを母体としてネズミ数は秋までに十分ふえるので、侵入のない造林地でも効果は長続きしないでしょう。繁殖期にくり返してネズミを取り除いても、またすぐ元の数にもどることは多くの実験からも裏付けられています。

結局、駆除をするよい時期はネズミの繁殖期が終った秋か冬です。冬にする雪中駆除は手間がかかりますので、秋に重点をおくのがよいでしょう(図)。秋の殺そ剤散布は次の諸点に留意すれば、より効果があがります。最終の散布は根雪直前に行う、散布をくり返す場合には 2 週間から 3 週間おく、小面積造林地で、しかもエゾヤチネズミの多い時には周辺散布幅は広くとる。は根雪によってネズミの移動分散が抑えられますので、駆除後の侵入ネズミを少なくするために大切です。 と は周囲のネズミ数を少なくして、造林地に侵入するネズミの数を抑えます。 (昆虫野兎鼠科 中田圭亮)



駆除とネズミ数との関連 (模式図)